

日本SOD研究会報

特集 丹羽療法 治療レポート

末期がん患者の家族

丹羽療法と 抗がん剤治療との葛藤

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住 所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.SOD-jpn.org/> SOD

とある一日。とある丹羽先生の診療所。

医者から末期の脾臓がんではな
いかと宣告された70歳代の男性の
ご家族が丹羽先生のもとを訪れて
いました。患者さんは今、病院に
入院して一ヶ月。当然ながら抗が
ん剤治療を始めていました。

しかし、ご家族、とくにその妻
と娘は抗がん剤治療に疑問を持っ
ていました。がん宣告を受けてか
らというもの、なんとかして助け
たいという強い想いがふたりを突
き動かし、人伝に丹羽療法へとた
どり着いたのです。

しかし、かんじんの患者本人と
息子は、今かかっている大きな病
院の治療法しか信じません。丹羽
療法を理解する以前に拒絶してい
ました。

そんな問題を抱え、この日、母
と娘は丹羽先生のもとを訪ねてい
ました。

今回の丹羽療法レポートは、ほ
んとうによくある、このような問
題を抱えた患者さんたちのお話を
もとに、一例をご紹介します。

その患者さんは70代男性。一ヶ
月ほど前に一度、冬虫夏草をもと
に丹羽先生が開発したがんの薬『冬
山』とSODなどを処方されて服
用していました。しかし、息子さ
んの勧めで大きな病院に入院して
しまい、抗がん剤治療を始めたの
でした。

母「息子は絶対に大きな病院でな
いと信用できない」と

丹羽「おかあさん、抗がん剤を使
うのは、いまや先進国では日本の
医者だけなんだ。欧米では使わな
いんですよ。特に余命一年以内の
末期の患者さんには。そんなこと
するよりも、おいしいものを食べ
て、楽しく余生を送れと言うん
ですよ。患者さんや家族が望めば使
いますよ。しかし、そのときも、お
宅のご主人は抗がん剤を使っても、
あと三ヶ月しか持ちませんよ。そ
して、こうこう、こういう副作用
がありますよ。それでもいいです
か？」と納得させるんですよ。そ
れが日本の医者は、患者さんが、先
生、抗がん剤を使ったら助かるん

ですか？」と聞くと、「使わなければ間違いなく死にますよ」と言い、使って腫瘍マーカーの数字が小さくなると、ほら、抗がん剤でがんがこんなに小さくなった。効いていますよ」と言うんです。それをいわれたら、みんな助けたいから、このことばにすがってしまうんです。玉虫色のいいことを言うてくれる医者信じてしまう」

母「民間療法は信用できないと言うんです」

丹羽「丹羽療法をそんなふうにか見れないんでは仕方ないわな。患者さんには気の毒だけど、これはご縁がなかったと。でもね、息子さんに言いなさい。欧米では抗がん剤治療はしていない。ただ、それに取って代わるものがない。先日おとうさんに出した『冬山』という薬、あれは、私の息子が死んでから30年、私が一生懸命に必死になって研究してきて生まれたものなんだ。そこらの医者はエビデンスがないとボロクソに言うし、ネット上でもボロクソに叩かれている。いま、それに関して

は私も訴訟を起こしているところなんだが、とにかく、丹羽療法がそこらの医者の脅威だから叩かれる。効くから叩かれる。医師会、製薬会社こそって厚生省まで動かして叩いてくる。それだけ脅威なんです。丹羽療法のせいで周囲の病院がつぶれかかっていると。



丹羽先生は中国の産地指定の天然の素材のみ使用

医師会は、患者が助かることよりも病院がつぶれないことが大事なんだ。そこで『冬山』なんだ。これは私が冬虫夏草をもとに12、13年前から研究してきた薬なんだが、ここ5、6年前からこの冬虫夏草が世界的にがん効くと、どうし

て効くかということが分かってきたんだ。遺伝子のところについて効くというメカニズムまで分かってきたんだ。それで立て続けに10個くらいの論文が出た。それらはモルモットを使った実験で効いたというものばかりで、人間に使って効いたという論文はまだひとつもなかったんだ。しかし、私のところには『冬山』を使った症例が2800人もあるんだ。先日、その話をアメリカの友人の教授に話したら、ものすごくびっくりするんですよ。冬虫夏草の論文は今、ブームで40くらい出ているが、人間の症例がないんだと。ドクター

丹羽がそれだけの症例をもっているならすぐに論文にしろと。それで論文を書き始めたら、アメリカの教授から電話があって、がん学会の雑誌の審査員をしている先輩教授にこの話をしたら、ものすごく喜んで、がん学会の雑誌に載せるから直接わたしのところに送ってくれと言われたんだ。国際がん学会の雑誌に私の論文が載れば、もう厚生省も医師会も何も言えな

くなりますよ。私は、必ずそういう時代が来ると言い続けてきた。それがこの秋には実現するんです。お宅のお父ちゃんはそのときにはもう生きていないかもしれないけど、このことは息子さんに言っておいてください」

医者玉虫色の

言葉にすがっても

絶対に助かりはしない

母「なんとかできないでしょうか」

丹羽「やっぱり、息子さんの反対を押し切って無理に連れてこいとは言えない。しかし、あんたらのことを思うと、なんとかしてやりたい。けど、無理やり連れてきて、文句言われて不快な想いはしたくない。うちは信頼してもらって治療を受けてもらいたいんですよ。うちでは助かった人はもちろん、亡くなった患者さんのご家族からでもいい手紙をもらうんです。友達はみんな苦しんで死んでいったけど、先生のおかげで、うちのお父ちゃん安らかに死んでいった。本当にありがとうございました。こ



れは互いの信頼関係。やった人でないと分からないですよ。奥さん、私も神様ではないから絶対に助けてやるとは言えない。ただ、抗がん剤をやっても、お父ちゃん

さい。ただ、私も神様じゃないから、やってみないと分からない。一ヶ月、二ヶ月やってみれば効いている人とムダな人が分かる。効かなかった人には、これ以上やってもお金のムダだから、家に帰っておいしいものを食べて安らかに最後を過ごしなさいと言います。うちはそのような指導をしています。

しかし、玉虫色のことを言う医者ではなくさんいます。患者さんは助かりたいから、甘い言葉のほうに行ってしまうんです。Aという病院、Bという病院、ふたつの診察を受け、Aでは胃がんと言われ、Bでは胃潰瘍だから手術しなくてもいいですよと言われたら、患者さんは必ずBの医者のほうを選ぶんです。軽いほう、希望を持たせてくれるほうを選ぶんです。私は本当のことしか言わない。もしもできるなら、おとうさんに丹羽先生と一時間くらい話をしてみたらどうかと言ってみなさい。その時間は私も作ります。なにか質問ありますか？ なんでも聞いてください」

三週間しか治療をしてくれない 今の保険医療制度の実態

母「先生、腹水が溜まっていてご飯があまり食べられないんですが」
丹羽「それは抜けますよ。全部を抜くことはできないけど、ご飯が食べられるくらいには抜けますよ。普通、腹水を抜くと栄養も逃げるから、栄養剤を入れながら抜くんです。ただね、この処置は、あんまりやると健康保険が効かなくなるんです。保険の点数が高いからおそらく普通の病院はやってくれないと思いますよ。三週間以上入院していたら、病院に対する厚生省の補助金が半分に減るんです。そこから先は何を処置しても病院には補助が出ない。だから三週間以内はむちゃくちゃいいことをしてくるんです。三週間過ぎたら早く出て行ってくださいというようなことを言われる。どれくらい入院してますか？」
母「一ヶ月です」
丹羽「ああ、そろそろ言われてる

でしょ？」

母「はい。通院に変えましようと言われました」

丹羽「そうですね。これが今の保険治療の実態です。だから、腹水を抜いてもお医者さんはあとでタンパク質を補えないから困るんですよ。一ヶ月を過ぎた患者さんにはやってくれないですよ」

母「あの、抗がん剤の副作用だと思うのですが、ご飯が食べられないんです」

丹羽「それはあたりまえですよ。医者も70歳過ぎた患者によく抗がん剤治療をするわな」

母「だけど主人は、丹羽先生の薬の副作用だと思っているんです。なので先生の薬をやめてみて、それでも食欲がなければ抗がん剤だ

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。
※自由診療となります。

丹羽メディカル研究所
☎0120(731)175
もしくは

日本SOD研究会
☎03(5787)3498

まで お電話ください。

と気づくと思うので、こちらの薬を少しやめてもいいですか?」

丹羽「それはいいですよ。抗がん剤の副作用なのは明らかですから」

母「抗がん剤のおかげで少し腹水が引っ込んだといって主人は喜んでるんですよ」

丹羽「腹水が10センチ、20センチ引っ込んでも、抗がん剤で撃ち殺されてはどうしようもないよ。がんにも効いたら、人間にも効いて、正常な細胞を殺しているんだから人間もやられているんだから」

母「お医者さんから、腹水が少し引いて、今やっている抗がん剤が効いているので、通院でいけると言われました、通院というのが本人にもすごく魅力的なようで」

がん細胞の縮小効果と延命効果は違うんだ

丹羽「ほら、そうやって退院させる。いいですか、お父ちゃん、このままでは必ず死にますよ。70歳過ぎて抗がん剤のタキソールを打って、生きられるわけがない。抗がん剤

で一時的にがんが小さくなっているだけなんです。同時に正常な細胞も死んでいっている。そのうち副作用がきつくなって抗がん剤をやめる。するとがんが大きくなる。また抗がん剤を打つ。それを繰り返しているうちに身体が弱って死ぬんです。縮小効果と延命効果は違うんですよ。医者は小さくなった小さくなったと言って喜ばすんでしょ? (母、うなずく) 小さなものと生きるのとは別なんです。欧米の学者はみんなそのことを分かっている。日本の医者のはほとんどは、がん細胞の腫瘍マーカーだけしか見ていない。患者の身体のことなんか見ていないんですよ」

娘「父は、これくらいの副作用なら我慢できるというんです」

丹羽「たまにそういう鈍い患者さんもいます。ところが、自分では自覚症状はなくてどうもないけれど、ある日、突然、血小板という出血を止める細胞がやられて腸管出血で2、3日でコロッと死にますよ。あと、風邪。誰でも引きますが、抗がん剤を打っている人は、ばい

菌を殺す細胞がやられていて、ただの風邪でも肺炎になって、これも引いたと思ったら2、3日で死にますよ。自分は自覚症状がなくても、細胞がやられているからだめです。がんと人間の力関係は誰にも変えられない。がんと人間を比



べたら、がんのほうが強いんだ」

娘「先生のところではがんを治療するのではなく、延命をしてくださるということでしょうか」

丹羽「ばかをいっちゃいけない。治る人、いますよ。治すためにみんな必死ですよ。白血病などはじゃ

かじゃか治っていますよ。骨髓移植ができなくても治っていますよ」

母「本人には丹羽先生のところに行くように話しますが、土佐清水まで行くのに、点滴をはずせないと思うんですが」

丹羽「点滴は一日や半日しなくても大丈夫。助けるのなら体力のある今のうちですよ。体力なくなってから来ても助からないよ。血小板がやられて出血してからでは助からないよ」

娘「抗がん剤はやめたほうがいいんですか? 可能性はゼロなんですか?」

丹羽「断言する。必ず撃ち殺される。あんたくらい若くても(30代半ばくらい) 末期がんの場合はダメ。なのに70代のじいさんに抗がん剤だなんて、医者の非常識もいところだ」

娘「医者は普通の半分しか打っていないというんですが」

丹羽「副作用が出るとしんどいから少ない量でいきますよと言う。そうすると人間にはこたえないよね。でも、がんにもこたえない。

抗がん剤の成分は毒ガスなんですから」

娘「でも、医者はい臓をターゲットにするのならタキソールがいちばんだとおっしゃったんです」

丹羽「欧米でそんなことを言ったら笑われてしまう」

母「すい臓はやはりだめですか？」

丹羽「すい臓は速い。平均半年でダメだね。せいぜい生きて10ヶ月から1年。すい臓に効く薬は西洋医学では皆無」

母「丹羽先生のところでもダメですか？」

丹羽「いや、5年以上生きている人もいるし、それこそ3年はたくさんいますよ」

母「3年生きてくれたら嬉しいです」

丹羽「でも、他のがんに比べたら足が速いと認識しておいてください」

母「ありがとうございます。なんとかそのことを理解してもらいます」



丹羽先生のところにはこのような問題を抱えた患者さんがたくさん訪れます。患者本人は丹羽療法を希望しているのに、周囲の猛反対にあうという、今回の逆のケースも多いと言います。先生は、そのような間違った知識が歯がゆくて仕方がないと言います。

「がんが小さくなったからと言って延命にはならないんだ。そのことを医者は患者さんにきちんと言わない。これは犯罪みたいなもんだ。医療費というのは、年々かさ増して、今の政府の予算の6割にも上っている。これから老人が増えるから益々予算を食う。その医療費の中の8割が抗がん剤に費やされている。こんな無駄使いはない。抗がん剤をやめたら政府の予算、いつぺんで黒字になりますよ」

しかし、治療法の選択の無理強いはできません。本当にこればかりはご縁としかいえないのが現状です。



SOD 愛飲者からの質問

今回はぜひ丹羽先生に聞いてもらいたいというSODの愛飲者の方々からの質問に答えていただきました。

妊婦のインフルエンザ 予防接種

ひとつ目の質問は、インフルエンザの予防接種です。この質問は以前にも会報の104号でお年寄りや抵抗力の弱っている人は予防接種は避けたほうがいいと紹介しました。そのときの先生のお話を少し抜粋します。

「そもそも予防接種というのはインフルエンザならインフルエンザ、日本脳炎なら日本脳炎のウイルスを、能力を落としてちよつと入れるんだ。それを弱毒化と言う。例えば1000くらいあるウイルスを1くらいに薄めて体内に入れるわけだ。1000全部が入ってくると大変だけど、1くらいなら、

体がそれに対して抵抗力を作ろうとして免疫機能が働いて抗体を作っていく。予防接種はそれをねらっているんだな。だから効くことは効く。

しかし、気をつけなければならぬのは、生まれつき抵抗力を作ることができない人がいること。膠原病やがんの末期の人なども抵抗力を作る余裕がないから、そういう人にインフルエンザの予防接種をしたら、ウイルスを例え1000分の1に薄めても本当のインフルエンザになってしまう。抗がん剤治療をしている人は、正常な細胞も殺されているから、抵抗力がないわけだ。

もうひとつ気をつけなければならぬ人は、ステロイドを長期に飲んでいる人。こういう人も抵抗力がなくなっているから、インフルエンザの予防接種はしてはいけない。もしもやったら本当のインフルエンザになって死んでしまう」

ということですが、今回の質問はそのことを踏まえ、妊婦さんは受けたほうがいいのかどうか、また、その場合、生まれてくる子供に影響はないのかということです。

「大丈夫です。ただ、流産の気があつて、流産を止める薬を使っている人以外は大丈夫です。子供にもまったく影響はないです。むしろ、インフルエンザにかかってしまうほうが影響がありますから、ぜひ予防接種をしてください」

一ヶ月ほど前からメキシコに端を発した新型インフルエンザが猛威をふるっています。予防のワクチンができるまではインフルエンザにかからないように自己防御する必要があります。なるべく人がたくさん集まる場所にいかないこと。外出から帰ったら必ず手を洗い、うがいをする。そして、室内を乾燥しすぎないようにすること。さらに十分な休養とバランスの取れた栄養をとり、抵抗力を高めるにつきます。

■ シェーグレン症候群 ■ ■ について

続いては、シェーグレン症候群におけるSODの有効性についてという質問をいただきました。

この病気は、自己免疫疾患といわれる一群の病気のひとつで、膠原病の一群型といわれています。主に涙腺や唾液腺が炎症を起こし、分泌物が減少することによって乾燥症状が現われる病気として知られています。スウェーデンの眼科医シェーグレンの名にちなんでつけられたものです。

シェーグレン症候群は、膠原病、リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、混合性結合組織病の合併が見られない一次病と呼ばれるタイプと、他の膠原病と合併する二次性と呼ばれるタイプに分類されます。一次性には涙腺や唾液腺のみに病変が限られる腺型と病変がリンパ節、肺、肝臓、腎臓などに波及する腺外型とに分けられます。圧倒的に女性に多く見られる病気で、年齢は10代から高齢の方まで幅広く見られます。多くは40歳、50歳で発症。中高年に多い病気といえます。

「この病気にSODは、ほかの疾患に比べるとあまり効果的ではない

いですね。命を取る病気ではないから、涙が出るのと、口が渇くだけで辛抱することくらいです。パロチンという薬とSODを飲んで辛抱していなさいということです。とりあえずSODを飲んでいれば進行は抑えられるから」

■ 掌せき膿疱症 ■

最後の質問は、SODは掌せき膿疱症に効果的かどうかです。

掌せき膿疱症というのはウミが溜まった膿疱と呼ばれる皮疹が手のひらや足の裏に数多くみられる病気で、周期的に良くなったり、悪くなったりを繰り返します。と

きに、足と手のほかにスネや膝にも皮疹が出る場合があります。皮疹は小さな水ぶくれが生じ、次第に膿疱に変化します。その後、かさぶたとなり、角層（皮膚の最表層にある薄い層）がはげ落ちます。後にこれらの皮疹が混じった状態になります。出始めに、よくかゆくなります。また、鎖骨や胸の中央やその他の関節が痛くなることもあります。

「これも治らない病気の一つですね。外来でいいのうちに来て、SODの軟膏を塗るといいです。SODを飲みながら軟膏を塗るとかなり効果的です。ほっておいたら危ない病気ですから、きちんと治療の必要があります」

SOD様作用食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢 5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛

Tel 03-5787-3498

までご一報ください。

SOD様作用食品とは・ 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力を握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が



存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため、内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽鞠負（耕三）医学

博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬がテーマでした。開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病氣は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

丹羽療法を知る一冊

◆ブックガイド◆

「がん治療 究極の選択」

講談社

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」日本SOD研究会

「丹羽博士の正しいアトピーの知識」廣済堂

「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」廣済堂

「白血病の息子が教えてくれた 医者的心」草思社

「安心の医療・本当の健康」みき書房

「クスリで病氣は治らない」みき書房

「医は仁術なり」至知出版

「丹羽療法全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」リヨン社

「SOD様作用食品の効果」小冊子

